

東都文京病院

総合内科研修カリキュラム

院長 山田義直

指導医 須永眞司

2014年4月1日改訂

I. 研修到達目標

内科医として必要な知識、技能を広く修得し、日本内科学会認定内科医資格を取得できる能力を身につけることを目標とする。また、将来的には総合内科専門医資格取得を目標とする。

II. 研修体制

(1) 入院診療

内科入院患者の受け持ち(担当医)となり、主治医である指導医とペアを組んで、患者の診療に従事する。一定の経験を積み指導医が認めた場合には、患者の主治医となり、指導医の指導の下に診療を行う場合がある。主治医は診療方針に対する最終的な決定権を有し、患者に対する全説明責任を負う。

(2) 外来診療

一定の経験を積み指導医が認めた場合に、指導医の指導の下に外来診療を行う。

(3) 研修期間

原則として3年間とする。

III. 指導体制

(1) 指導医

内科専門医・指導医資格を有する常勤医および、それと同等の能力を有する常勤医が指導を行う。

(2) 教育的行事

- a) 毎週月曜日(17:30～)に、内科入院全症例に対する症例検討会を行う。
- b) 毎朝(月～金、8:30～)、担当症例に関し、指導医、看護師を含めカンファランスを行う。
- c) 毎週水曜日(13:30～)に、院長回診を行い、担当医が同行・プレゼンテーションする。
- d) 毎月1回(不定期)、病理解剖症例に関して臨床病理検討会(CPC)を行う。

(3) 評価

第IV項に定める達成目標について、年1回、自己評価および指導医からの評価を行う。

IV. 習得すべき知識・技能（到達目標）

初期研修で習得すべき基本的行動様式・知識・技能については、原則として下記のリストから外した。ただし、研修中にも常に心がけるべき重要な点に関しては、リストに掲げた。

評価：a=十分できる、b=できる、c=要努力、n=評価不能

	自己 評価	指導医 評価
1. 医師としての行動目標		
他者(患者、同僚等)と良好なコミュニケーションをとる。		
患者・家族への病状説明を行う。		
診療録(カルテ)を適切に記載し管理をする。		
診療情報提供書・報告書を作成する。		
診断書を作成する。		
保険制度を理解し、症状詳記を作成する。		
PubMed等を活用し、適切に医療情報を収集する。		
学会で症例報告を行い、論文を作成する。		
2. 習得すべき基本的知識		
人体および各臓器の基本的構造と機能		
内科各分野の疾患に対する教科書的知識		
免疫反応とその機序		
細胞の腫瘍化と遺伝子変異		
食事療法、運動療法の基礎		
薬物療法の理論		
医療にかかわる法制度		
臨床試験と臨床疫学、統計学的解析法		
3. 習得すべき手技・技法		
(1) 医療面接・身体診察		
医療面接により、患者から必要な情報を聴取する。		
全身の身体診察を行い、適切に記録する。		
神経学的な診察を行い、適切に記録する。		
(2) 臨床検査：適応の判断と結果の解釈		
一般的な血液検査、生化学検査、尿検査		
動脈血液ガス分析の解釈		

評価：a=十分できる、b=できる、c=要努力、n=評価不能

	自己 評価	指導医 評価
画像診断(US, CT, MRI, 等)の適応判断と読影		
腹部超音波検査の施行、異常の有無の判断		
心電図検査、負荷心電図検査(適応の判断)		
内視鏡検査(適応の判断)		
ホルモン負荷試験		
胸腔穿刺(適応の判断、実施、結果の解釈)		
腹腔穿刺(適応の判断、実施、結果の解釈)		
心嚢穿刺(適応の判断、結果の解釈)		
骨髄穿刺(適応の判断、実施、結果の解釈)		
腰椎穿刺(適応の判断、実施、結果の解釈)		
各臓器(肝、腎、皮膚、リンパ節等)生検(適応の判断、結果の解釈)		
(3) 患者管理・治療に関する手技・技能		
中心静脈を確保する。		
気道の確保、気管内挿管を行う。		
二次救命処置(ACLS)を行う。		
病態に応じた酸素療法を行う。		
病態に応じた輸液療法を行う。		
病態に応じた食事療法・運動療法の指示を出す。		
抗菌薬を適切に使用する。		
副腎皮質ステロイド薬を適切に使用し、その副作用対策を行う。		
非ステロイド系抗炎症薬を適切に使用し、その副作用対策を行う。		
輸血の適応を判断して実施し、その副作用対策を講じる。		
プロトコールを読んで抗癌薬を適切に使用し、その副作用対策を講じる。		
4. 経験すべき症候と疾患：診断と治療		
(1) 症候		
ショック		
意識障害		
痙攣		
発熱		

評価：a=担当医として経験、b=担当ではないが経験、c=未経験、n=評価不能

	自己 評価	指導医 評価
頭痛		
呼吸困難		
胸痛		
腹痛（急性腹症）		
吐血・下血		
腰痛		
乏尿・無尿		
血尿		
四肢麻痺（運動障害）		
四肢しびれ（感覚障害）		
リンパ節腫大		
浮腫		
黄疸		
認知症		
(2) 循環器疾患		
狭心症・急性心筋梗塞		
心不全		
不整脈		
高血圧症、高血圧性緊急症		
(3) 呼吸器疾患		
肺炎、気管支炎		
肺がん		
肺気腫、気管支喘息		
気胸		
(4) 消化器疾患		
食道静脈瘤		
胃・十二指腸潰瘍		
胃がん		
腸閉塞		

評価：a=担当医として経験、b=担当ではないが経験、c=未経験、n=評価不能

	自己 評価	指導医 評価
炎症性腸疾患（Crohn病、潰瘍性大腸炎など）		
大腸ポリープ		
大腸憩室炎		
大腸がん		
慢性肝炎		
肝硬変		
肝がん		
胆石症・胆嚢炎		
膵炎		
(5) 内分泌・代謝性疾患		
糖尿病		
高脂血症		
メタボリックシンドローム		
甲状腺機能異常症（亢進症、低下症）		
(6) 腎・尿路系疾患		
急性腎障害・急性腎不全		
慢性腎臓病・慢性腎不全		
原発性糸球体疾患・ネフローゼ症候群		
腎盂腎炎		
尿路結石		
(7) 血液疾患		
急性白血病		
骨髄異形成症候群		
悪性リンパ腫		
多発性骨髄腫		
血小板減少症		
播種性血管内凝固症(DIC)		
(8) 膠原病・アレルギー性疾患		
関節リウマチ		

評価：a=担当医として経験、b=担当ではないが経験、c=未経験、n=評価不能

	自己 評価	指導医 評価
膠原病		
薬剤アレルギー（薬疹、アナフィラキシー）		
(9) 感染症		
インフルエンザ		
伝染性単核球症		
発疹性ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、等）		
結核（肺結核、結核性胸膜炎）		
真菌感染症		
(10) 精神・神経系疾患		
脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜下血腫、等）		
良性発作性頭位めまい		
Parkinson 病、Parkinson 症候群		
認知症		
末梢神経障害		
過換気症候群		